



〔中津宮七夕祭に併せ〕  
**むなかた大島七夕祭り開催**  
 八月七回夕刻より、恒例の七夕祭が、筑前大島。中津宮で斎行され、島民はもとより、島外からも多く方が来島し、夜遅くまで賑いました。



9月祭事暦	
毎月1・15日	つぎの月次祭
午前10時～	高宮祭 第二宮・第三宮祭
	引き続き 宗像護国神社
	月命日祭(1日)
	巡 拜(15日)
午前11時～	総社祭
	※1日は併せて 風鎮祭 斎行
	浦安舞奉奏(1日)
	豊栄舞奉奏(15日)
23日	皇霊殿遙拝式
午前10時～	
31日	秋季大祭
	総社地主祭 午後5時～
	宵宮祭 午後6時～

中津宮の七夕祭は、八〇〇年以上の伝統を持つ神事で、筑前大島が七夕伝説発祥の地とも言われている。この伝統を復興すると共に、大島が七夕伝説発祥地であることを多くの皆様に知って頂く為に、大島住民と宗像観光協会(吉武邦彦会長)、大島村商工会(里口一男会長)の協力により「むなかた大島七夕祭り」と題して、島民一体となつて取り組まれた。

八月一～七日までを七夕週間とし、七月三十一日には沖・中両宮奉賛会(佐藤千里会長)によつて中津宮境内及び、大島フェリーターミナル、海水浴場周辺を七夕飾りで装飾すると共に、期間中に旅館・民宿に宿泊された方には中津宮境内で湧き出る「天ノ真名井」の御神水と七夕短冊がプレゼントされた。



八月七日祭典当日には、早朝より沖中両宮奉賛会、敬神婦人部(河辺恒子部長)の奉仕により境内周辺の七夕装飾が行われ、中津宮境内周囲は七夕飾り一色で彩られ、午後六時頃には浴衣姿の島民や、島外からの参拝者が続々と中津宮へ参集。

### 宗像大社 御神菓 調製



味噌せんべい・博多の四季

## 本舗 梅月堂

代表取締役 三野 拓蔵  
 〒812-0029  
 福岡市博多区古門戸町1-11  
 TEL 092-291-2966

んだ。  
六時三十分からは宗像観光協会により、中津宮境内下の「港湾緑地公園」で「七夕コンサート」を開催。宗像で演奏活動を行っている「ジュピターズ」、「のど自慢」チャンピオンに輝いたこともある出光仁美さん等に出演頂き、同協会イベント部（戸波真也部長）の司会で、大島の



神賑わいとして沖・中両宮翼賛会（上野美実会長）による「かき氷・タコ串焼き」、大島青年団の「金魚すくい」、ヨーヨー釣り」、J.A宗像大島支店の「ビール販売」、宗像市の「大島牛試食会」が催されると共に、ヤブツコ会（河野幸一代表）により境内及び道路沿いに竹灯が灯され、家族連れを中心に七夕の夜を楽し

んで行われ島民、来島者、子供、大人も皆で七夕の夜を過ごした。全ての行事終了後、午後九時三十分には宗像観光協会チャーターで、大島港より臨時渡船が出港し一〇〇名近くが乗船、島外の人々は帰路につき満天の星空のもと、本年の七夕祭りを無事に終了した。この七夕祭りであるが、その昔大



夕日輝く海を背景にベンチアーズサウンドや美声が披露されると、観客もリズムに合わせて踊り出すなど、大変な盛り上がりであった。午後八時には厳粛に七夕祭りが斎行され、参列者はそれぞれの祈りを込めて玉串を捧げた。祭典後に行われる恒例の七夕踊りも参加者が多く、大島居を二重の輪で囲

ば、その縁談はまともなともいわれていた。さらに子供の欲しい人は短冊に願い事を書いて流したそうである。この伝説が大陸から大島に伝わり、滞在していた京都の商人によりの全国各地に伝播していったというのが、大島七夕伝説発祥の地と言われる由縁である。



島では七日間参籠して、七夕の夜になると二枚の短冊に想う人の名を別々に記して、中津宮境内を流れる「天の川」に流し、二つの短冊が並んで流れると、神が夫婦の契りを許してくださった。あるいは「天の川」に水の入ったタライを浮かべて、その中に想う人の名を記した短冊二つを入れて、それが結びつけ



## 宗像建設協力会

事務局 〒811-3217 福津市中央5丁目1-20  
TEL (0940)42-3085

株式会社 **井上建設**

〒811-3217  
福津市中央五丁目1-20  
TEL 0940-423085  
FAX 0940-423085  
井上 重信

株式会社 **桜井建設**

〒811-3212  
福津市畦町三四六  
TEL 0940-421188  
FAX 0940-421526  
桜井 良行

株式会社 **篠崎建設**

〒811-3205  
福津市内殿一〇二  
TEL 0940-420619  
FAX 0940-420675  
篠崎 清

株式会社 **田畑建設**

〒811-3219  
福津市西福岡三一五  
TEL 0940-425105  
FAX 0940-425153  
田畑 博規

株式会社 **日新建設**

〒811-3431  
宗像市田熊四丁目一三六  
TEL 0940-362231  
FAX 0940-362798  
長尾 榮次

株式会社 **松崎組**

福岡市中央区荒戸一丁目二一四  
TEL 092-7513692  
〒811-3305  
福津市宮司一八四四  
TEL 0940-521133  
FAX 0940-521133  
松崎 芳勝

**松本組建設株式会社**

〒811-3501  
宗像市神湊一〇二  
TEL 0940-621016  
FAX 0940-621016  
松本 純次



# 夏越の大祓式

七月三十一日、夕刻といえ真夏の強い陽射しが照りつける午後五時より、夏越の大祓神事が、古儀に則り厳肅裡に斎行された。

大祓式は、奈良時代の昔より神祇官の命により、国家的祭事として行われて来た儀式であり、今日では全国津々浦々の神社に受け継がれ、旧暦の六月と十二月の晦日に二季行われている。

当大社では新暦、月遅れの七月三十一日に行っており、猛暑を無事越し、災厄除を祈る夏の恒例祭典となっている。

当日早朝より田島地区総代、地元協力会の皆様の御奉仕で大社近くの川辺で茅取り作業が行われ、大量の茅が準備された。その後、一定の長さ量に揃え、直径五メートルにも及ぶ大茅輪が奉製され、昼過ぎには神門に備え付けられた。

古来、この茅輪を三度潜れば、邪気・災難を祓い去り、暑気にもめげず健全な生活を送ることが出来ると伝承されている。

午後五時、全国から寄せられた紅白人形が茅輪の前に供えられ、神島宮司以下神職、巫女、氏子崇敬者約三〇〇名が神門前に参集し、神事が開始された。高向権宮司が「大祓詞」を奏上した後、参列者各人「切麻」で祓い、「祓物」に息吹を吹きかけて切り裂き、半年間の罪・穢を祓った。

続いて、神島宮司以下参列者全員で、茅輪を左に廻り

みなつきの夏越の祓へする人は

千歳の命延ぶといふなり

茅輪を右に廻り

思ふこと皆つきねてと麻の葉を

切りに切りても祓へつるかな  
さらに茅輪を左に廻り

宮川の清き流れに裸せば

折れることの叶わぬはなし

と古歌を奉唱しながら、三度潜り、本殿へと参進した。

引き続き、本殿で夏越祭を斎行。国家・皇室の安泰と繁栄、氏子崇敬者と、全国から人形を寄せられた方々の健康・災難消除を祈念する祝詞が、神島宮司により奏上され、巫女による神楽「豊栄舞」が奉奏され、夏恒例の一大神事は滞りなく終了した。

## 宗像大社

# 刀剣展開催

県内の愛刀家のご協力の下、毎年秋に開催の刀剣展。今年は優美な刀身や拵と共に、刀の小道具も展示いたします。皆様、是非お越し下さい。

日時 平成18年9月23日(土)～10月22日(日)

時間 午前9時～午後4時半

会場 宗像大社神宝館1階展示室

入館料 大人 5000円

大学・高校生 3000円

中・小学生 2000円

15名以上は1000円引

(本料金で2・3階の常設展も併せてご覧頂けます)

## 宗像タクシー協会

TEL 811-4185 宗像市赤間駅前2丁目3番14号  
連絡先 TEL (0940) 35-1111

みなとタクシー株式会社(会長)

代表取締役 古野 浩

TEL 〇九四〇・三三・一三三一

新星交通有限公司

代表取締役 森 正彦

TEL 〇九四〇・三六・二一三八

宗像西鉄タクシー株式会社

代表取締役 小金山 重樹

TEL 〇九四〇・三二・四一三一

宗像グリーンタクシー有限公司

代表取締役 藤瀬 政敏

TEL 〇九四〇・三三・三三〇三

宗像平和タクシー株式会社

代表取締役 塩川 浩一

TEL 〇九四〇・四二・〇〇四〇

福栄タクシー有限公司

代表取締役 保井 享

TEL 〇九四〇・四二・〇三三三

宗像交通有限公司

代表取締役 塩川 浩一

TEL 〇九四〇・五二・〇〇一五



# 世界遺産へ向け、行政も本格始動

## 宗像市長ら沖ノ島を現地視察

八月一日、沖ノ島を中心とする玄界灘沿岸にある関連遺跡を世界遺産に登録しようと谷井博美・宗像市長の呼びかけで、池浦順文・福津市長、中野昌昭・新宮町長に古賀市を含めた三市一町の文化財担当者、新聞記者、案内役としての当大社高向権宮司ら総勢約四十名が三隻の船に分乗して沖ノ島の現地視察を行った。

宗像市では、沖ノ島と宗像市、福津市、古賀市、新宮町の三市一町の玄界灘沿岸にある関連遺跡を一体化した広域的な世界遺産登録を目指して、本格的に取り組んでおり、今



然を実感した様子で、沖ノ島の歴史的価値を改めて認識したようであった。沖津宮からさらに島の最高峰「一ノ岳」へ向か

後さらに世界遺産登録活動を推進するためには、登録の中心となる沖ノ島の現状を確認する必要がある。周辺自治体へも参加を呼びかけ実現した。

当日は天候にも恵まれ、一行は神湊港を出港し風の海上を進むこと約一時間十分程で沖ノ島に到着、直ちに参加者全員、海中で禊を行ない、島内の視察をスタートした。

沖津宮で正式参拝を行なった後、島で行なわれていた約六〇〇年に亘る祭祀の意義や島が果たした役割、歴史などについて、高向権宮司の説明を受け、社殿を囲む巨岩群の祭祀遺跡を見学した。参加者は、数え切れない程の土器片が今もそのまま残る遺跡、沖ノ島が北限とされるピロウといった亜熱帯植物など、島の歴史と自然を実感した様子で、沖ノ島の歴史的価値を改めて認識したようであった。



う際には、夜行性のオオミズナギドリと遭遇した運の良い参加者もいた。

帰りには、船で沖ノ島を一周し、普段見ることのできない島の裏側(北側)では、表側(南側)と一味違う荒々しい姿に、参加者は盛んにシャッターを切っていた。

今回、初めて沖ノ島に渡島した谷井博美・宗像市長は、「世界遺産登録を目指す取り組みの必要性を実感できた。悠久の歴史を誇る沖ノ島を市民みんなで守り、次の世代へ引き継がなければならぬ。そのひとつの取り組みとして世界遺産登録を目指す。また、沖ノ島を中心とした玄界灘沿岸地域の遺跡を世界に知ってもらいたい」と感想を述べていた。

今後、宗像市では、福津市、古賀市、新宮町と一体となって沖ノ島と玄界灘沿岸の関連遺跡の世界遺産登録活動を推進していくとのこと、本格的に始動した行政に市民からも期待が寄せられている。



宗像大社御神酒醸造元  
**勝屋酒造合名会社**

社長 山本 博次  
福岡県宗像市大字赤間957  
TEL(0940)32-3010 FAX(0940)32-4772



地球に優しいひとときを…  
**Genkai Group**

**玄海グループ**

〒811-3502 福岡県宗像市江口978-52  
本社 TEL 0940-62-0653 FAX 0940-62-1565  
URL <http://www.genkai-g.co.jp>

(有)玄海環境サービス (宗像市許可業)

- 一般廃棄物収集・運搬
- 浄化槽の維持管理

**玄海環境グループ**

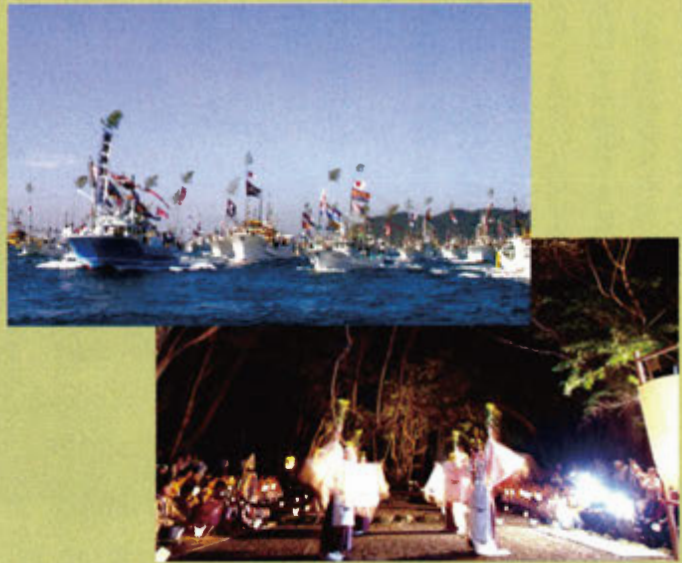
- 玄海クリーン(有) (宗像市委託許可業)
- 一般・産業廃棄物収集・運搬・処理

# 宗像大社 秋季大祭(田島放生会)のご案内

当大社最大の神事、秋季大祭を下記日程で斎行致します。皆様の御参拝を心よりお待ちしております。

## 宗像大社秋季大祭(田島放生会) 日程

10月1日(日)	海上神幸 (みあれ祭)	9:30	大島港出港
		10:30	神湊港入港
10月2日(月)	一日祭 (入御祭)	11:40	於=辺津宮 本殿 主基地方風俗舞 奉奏
	流鏝馬神事	8:00	於=神門前 参道
10月3日(火)	二日祭	11:00	於=辺津宮 本殿 翁舞 奉奏
	三日祭	11:00	於=辺津宮 本殿 浦安舞 奉奏
	高宮秋季大祭 第二宮・第三宮 秋季大祭 宗像護国神社 秋季大祭	三日祭終了後引き続き、 各社に分かれ同時斎行	
	献茶祭	14:00	於=辺津宮 本殿
	高宮神奈備祭	18:00	於=辺津宮 高宮祭場



お問い合わせ先 宗像大社 社務所 (0940)62-1311(代)

## 神宝館休館のお知らせ

企画展開催に伴う展示替えのため、会期の前後で休館いたします。

..... 休館日 .....  
平成18年9月19日(火)~9月22日(金) 及び  
平成18年10月23日(月)~10月27日(金)

ご迷惑をおかけしますが、ご理解の程よろしくお願いたします。また、平成18年10月28日(土)からは、企画展「国宝一括指定記念—沖ノ島祭祀と宗像・福津の文化財展—」を開催いたします。詳細は次号に掲載予定です。お見逃し無く!

## 沖ノ島から文明を考える

シンポジウムのお知らせ



<主催>比較文明学会 <共催>宗像市役所、宗像観光協会、沖ノ島物語実行委員会、宗像大社

先月号の「続 浜の寄物206」で石井先生も触れておられましたが、沖ノ島の世界遺産の可能性について、様々な角度から考えるシンポジウムが下記日程で開催されます。振るってご参加下さい。

<日時>9月30日(土) 13:00~

<場所>アグニス玄海

<参加費>無料(定員400名)

<プログラム>

13:00~ 谷井市長挨拶

13:10~ 吉村作治先生基調講演

13:50~ シンポジウム

パネリスト

小林道憲(福井大教授)

高倉洋彰(西南学院大教授)

西谷 正(伊都国歴史博物館長・九州大名館教授)

平井正則(福岡教育大教授)

吉村作治(早稲田大客員教授)

コーディネーター 川勝 守(立正大教授・九州大名館教授)

16:30 閉会



昭和15年頃のナカマル醤油本店

創業嘉永三年(1850年)  
伝統に支えられた宗像神湊の味。  
**ナカマル醤油醸造元**  
宗像市神湊1118  
TEL 0940-62-0003 FAX 0940-62-0353



の専門  
**上田清商店**  
〒811-3304  
福岡県福津市津屋崎1123  
Tel 0940-52-0148 Fax 0940-52-5488



宗像大社神酒  
合資会社 **伊豆本店**  
代表者 伊豆善也  
福岡県宗像市武丸1060  
TEL 0940-32-3010 FAX 0940-33-0512



暮らしの夢を大きくひろく  
**株式会社 城山家具**  
代表取締役社長 寺田 修  
宗像市三郎丸519-1  
0940-33-5538



**宗像農業協同組合**

本店 代表理事組合長 寺島 俊基  
宗像市東郷4丁目3番1号 TEL 0940-36-4110  
田島支店 支店長 田中 政人  
宗像市深田75-1 TEL 0940-62-1515



印刷のことならお気軽にご一報ください  
名刺・封筒・はがき・カラー印刷・製本のことなら  
**中川印刷**

福岡県福津市津屋崎975 TEL0940-52-0044 FAX0940-52-0414

# 第五十一回 中津宮七夕揮毫会

学校も夏休みに入ってまもない七月二十一日、筑前大島・中津宮で七夕揮毫会が開催され、宗像・福津市内はもとより福岡市からも訪れた約一七〇名の子供達は島での一日を満喫した。

この揮毫会は中津宮で開催される「七夕祭」に併せて、書道教育の振興を目的に昭和三十一年から始まり今年で五十一回を数える伝統ある行事で、大島小・中学校の先生方をはじめ大島の各方面のご協力をいただき、夏休みの恒例の行事となっている。本年は、参加者の多い福津市、同市議会、同市教育委員会、同市観光協会、宗像観光協会より各賞の協力を頂いた。



ついた。

大島の方

参加者は、到着後直ぐに揮毫会場である大島小・中学校の校舎に於いて揮毫に挑み、波音と蟬の鳴き声が聞こえる校舎で、皆、真剣に打ち込み、午前中には数枚を書き終え、自身作を持って中津宮へ来宮。正午過ぎには、全ての作品が提出された。作品を御神前に奉獻し、本殿で祭典が

齋行された後、中津宮社務所で福岡書道会の先生方の厳正な審査が開始され、その間子供達と保護者は中津宮前の浜で、毎年恒例の「サザエ拾い」や海水浴を楽しみ、真夏の島を満喫した。

午後三時には審査も終わり、早速境内の回廊に入選作品を展示した。子供達と保護者は熱心に作品を鑑賞していた。

表彰式では、葦津禰宜より入賞者に賞状とトロフィーが授与され、惜しめない拍手が送られていた。午後四時には表彰式も終え、参加者一同、夏休み最初の思い出を土産に帰路についた。

は表彰式も終え、参加者一同、夏休み最初の思い出を土産に帰路についた。



各受賞者は次の通り。

賞名	参加者名	学校名	学年	賞名	参加者名	学校名	学年
福岡県知事賞	門田 郁美	自由ヶ丘南小学校	小学5年	宗像市議長賞	金谷 梨沙	室見小学校	小学3年
福岡県知事賞	原 愛梨	柳城中学校	中学1年	宗像市議長賞	井土 史穂	中央中学校	中学3年
福岡県議長賞	花田 理沙	津屋崎小学校	小学6年	福津市議長賞	永山 和哉	春日野小学校	小学4年
福岡県議長賞	衣川 枝里	津屋崎中学校	中学3年	福津市議長賞	今泉 友子	雙葉中学校	中学1年
福岡県教育委員会賞	三木 まゆか	津屋崎小学校	小学4年	宗像市教育委員会賞	つる ゆうき	自由ヶ丘小学校	小学1年
福岡県教育委員会賞	三木 祐佳里	津屋崎中学校	中学2年	宗像市教育委員会賞	磯脇 佑太	城山中学校	中学2年
宗像大社宮司賞	高田 みのり	津屋崎小学校	小学2年	福津市教育委員会賞	永野 麻衣	赤間西小学校	小学5年
宗像大社宮司賞	與田 美果子	三橋中学校	中学1年	福津市教育委員会賞	丸山 帆成美	城山中学校	中学2年
宗像市長賞	かやの みお	赤間小学校	小学1年	宗像観光協会賞	上妻 由華	津屋崎小学校	小学2年
宗像市長賞	桑山 雅文	中央中学校	中学2年	宗像観光協会賞	樋口 真実	篠栗中学校	中学1年
福津市長賞	高武 麻里	津屋崎小学校	小学6年	福津市観光協会賞	小川 としひろ	青葉小学校	小学3年
福津市長賞	有田 梨沙	中央中学校	中学3年	福津市観光協会賞	千代 翔陽	福岡中学校	中学1年
柗石賞…九名	福岡書道協会賞…九名	尚文堂賞…九名	ヒロカネ賞…十四名				

<p>宗像・玄海の観光物産品卸</p> <h2>花田食品株式会社</h2> <p>代表取締役 花田 洋</p> <p>宗像市田熊6丁目3番27号 TEL 0940-36-5533</p>	<p>出光産産株式会社販売店 東京海上日動火災保険(株)代理店</p> <h2>吉井商事株式会社</h2> <p>代表取締役社長 吉井 英海</p> <p>本社 宗像市深田67-7 TEL 0940-62-0004 FAX 0940-62-3343</p> 
<p>創業大正七年 鮮魚・海産物</p> <h2>やまし</h2> <p>福岡県宗像市神湊中町 TEL 0940-62-0006(代) FAX 0940-62-2143</p> 	<h2>ファミリーストア岡山</h2> <p>岡山 秀雄</p> <p>福岡県宗像市神湊1000 TEL 0940-62-0134 FAX 0940-62-2914</p> 
<h2>遠藤クリーニング</h2> <p>代表 柴村 勲</p> <p>〒811-3501 宗像市神湊635 Tel 0940-62-0217</p>	<p>食料品・青果・たばこ</p> <h2>田中商店</h2> <p>福岡県宗像市神湊1052 TEL・FAX 0940-62-0122</p> 

(続)

# 浜の寄物

207



いしい だし

七月の後半、長崎県西方の海岸に流木群が漂着、新聞によると、その数四万本以上という。漂着は志岐、対馬にも及んでいる。二十七日には鹿児島県・阿久根市の海水浴場にも根つきや生木が漂着、海水浴業者やボランティアが出て、流木を撤去している。八月には福岡県の玄界灘にも漂流中の流木が発見され、回収作業が行われている。

長崎県や玄界の流木群は六、七



▲鹿児島吹上浜

月に襲った中国大陸の台風や洪水からの流出と見られる。また長期間海を漂流していたようで、フジツボやエボシガイ、フナクイムシ等が認められている。また河口や中流域に溜っていたものも一緒に流出したのではあるまいか、樹種等が分かれば、もつと明確になろう。阿久根市のものは、九州南部を襲った豪雨と関係あり、災害地からの流出が考えられる。



流木といえば一九九八年六月にあった中国・長江(揚子江)と、中国東北・松花江の大洪水がある。特に長江の大洪水は二十世紀最大の規模といわれ、二億数千万人が被害を受け、死者五千人以上であった。流石中国、人口も多いがスケールも違う。その長江から流出したものが東シナ海を渡って続々と日本へ漂着してきた。鹿児島県・吹上浜

へ、更に玄界灘、福津市の津屋崎浜、勝浦浜、山陰海岸に漂着している。津屋崎の場合は、海水浴シーズン過ぎていたが、流木や、中国・台湾のゴミが浜を埋めつくしていた。それらの漂着物には海藻やフジツボ、エボシガイが付着し、それが炎天下に腐敗して臭かった。

過去の記録を辿ると宝暦七年(一七五七)に東北から山陰にかけて、樺、五葉松などの生木が漂着、国内で大きな災害も聞かないので不思議に思っていたら、翌年長崎に來航した異国船が伝えるには、朝鮮国で山崩れがあり、その時に押し流されたものという。

もう少し古くなると十二世紀、出雲の稲佐浜に漂着した百本の流木で大社の造営が行われ、寄木の造営と呼ばれた。

現代の海、災害地からの流出物も増加しているし船舶の遭難、積荷の荷崩れによるコンテナや大量の木材の流出等も多い。回収が遅れると航行する船舶事故にもつながることになる。四月九日に起った鹿児島県・佐多岬沖の高速船は当初、鯨との接触といわれていたが、実際は流木であった可能性が高いという。集客一〇名が重軽傷を負った大事故だった。

## 玄海ホテル旅館組合

玄海国定公園の中心  
一風光明媚、生魚料理、宗像大社となり一



海	国民宿舎ひびき	みなと荘	松風荘	はま荘	はなわらび	高嘉旅館	神湊スカイホテル	玄海ロイヤルホテル	玄海旅館	魚屋別館	魚屋本店	泉館
宴	ひびき	荘	荘	荘	荘	荘	ホテル	ホテル	館	館	店	館
☎	☎	☎	☎	☎	☎	☎	☎	☎	☎	☎	☎	☎
六二一〇一〇〇	六二一一二八八	六二一一二五五	六二一一〇二二	六二一一〇五〇	六二一一一五六	六二一一二二二	六二一一三八〇	六二一一四一一	六二一一〇〇一	六二一一三三五	六二一一二二二	六二一一〇三五

# 第五四一回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メ切

宗像市 光岡 白土 凌一

学生の後姿に吾思う故に我有り老いて知りなん  
異色な見立てだが、下句が判らない「吾にもかかる時代のありし」なら判る。言葉は自分の言葉で正確に使うことが必要。

宗像市 光岡 森田 富佐子

花好む友はお花を買い求め部屋に飾りて皆の目をひく  
花好きな人なので心優しいのだろうが、このままでは自己顕示欲の強い人となる。  
〔花好む友がお花を買い求めて飾れば部屋の明るくなりぬの詠い方もある。〕

うきは市 浮羽町 向 則正

真夜中の庁舎にひとり音絶へてダム放流の灯のみ点滅す  
先達の豪雨の時の筑後川だろう。  
二句は「庁舎はひっそり」の方がいい。

福津市 中央 中村 勇

兄征きて故里の田植加勢する最中に吾にも令状の来る  
二句から4句を「里の田植を加勢する最中われにも」と定型にしたい。

福津市 若木台 野間 精一

ワカサギも山椒もともに貫ひもの佃煮にして今宵の一葉  
この一葉には精神的な豪華さがあり、節調もいい。

福津市 中央 池浦 千鶴子

厨より見るにあらねど家中に笑ひ声せるテレビは消さず  
前向きな作者の有り様がしのばれる一首。  
二句は「見へるならねど」四句は「笑ひ声する」がいい。

宗像市 田久 巻 桔梗

百万の実の落ちつぎて芽生えけむ神の林の櫛のをさな木(大社の櫛の林にて)  
「百万」は沢山の形容詞だが、「幾万」位でもいいのでは、言葉は言葉殺す場合もある。

福津市 星ヶ丘 佐々木 和彦

不如帰すでに啼かなくなりし杜鶯啼けり青田隔てて  
下句は倒置して「青田隔てて鶯は啼く」も選択肢の一つ。

福津市 在 自 増田 武光

享年を二十才と刻む戦死者の碑のかたわらに露草の花  
あの大战を知らない世代が八〇パーセント近くになった今、中村作品と同じく戦の悲惨を今猶失わずにいる作者である。

宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子

取り置きし玉ねぎ痛みて夕餉には煮物、汁物、天麩羅となる  
野間作品と違いこれは料理の数は多いが、気持の上では豪華とは言えない。そこが面白い。

宗像市 日の里 大和 美由紀

禅寺の静かな池に蝶廻るて赤き腹見せ垂直に浮く  
丁寧な詠い、静寂さは充分に出た一首だから、二句は「真昼の池に」としたい。

宗像市 大井 木原 ふさ子

潮騒を友とし独り住む人の表も裏もアロエ咲かしむ  
静謐な歌だが、「人は住む」と三句切れにし、結句は「咲かしむ」と運用形にした方が一首に広がりが出る。

宗像市 田野 森 甲子

山水の流れに沿ひて咲く菖蒲花生き生きた紫濃ゆし  
これも静謐な作であるが、咲く菖蒲とあるので四句は花を除き「生き生きた」と単純化したい。

宗像市 大島 杉田 禮子

宗任の墓所を守ること繁る榎の若葉さやさととなる  
「繁る」の終止形でなく「繁りて」の運用形にし、さやさととなる。は鳴ると表記すべきである。

北九州市 八幡 竹内 結子

梅雨が来て池の水かさ増しに増しお魚さんもビックリぎょうてん  
初々しい一首だが、結句「びつくりぎょうてん」は原作は「びつくり魚てん」と書いており言葉遊びの企みもあり楽しい。

宗像市 ひかりヶ丘 清水 亜矢子

雨降りて梅雨の終わりを告げる晴まだおとずれぬ青染まる空  
雷鳴りて梅雨の終わりを告げるの「まだおとずれぬ青染まる空」とれば歌意は、はつきりする「すぐれた感」覚を持つ人なので、裏使いを更に磨いて欲しい。竹内えと三人まで代々？と若いひとであり、楽しみである。

宗像市 池田 森 龍子

観葉樹の湿り含みて厚き葉は上がり框に夕光落とす  
梅雨明けの夕べであろう。景もあり、生活も見えて心ひかれる。二句は「湿り含みし」としたい。

宗像市 池田 森 龍子

詠者 隣り家の三毛猫園の池の鯉馴れなれしきを好まず吾は  
川遠きてわが庭にきて二日程飛びて呉れたる川とんぼ君  
蹲の替へたる水に黒揚羽舞ひ下りついと塩蜻蛉来る



# 第五一六回 俳句作品集

宗像市東郷 田中 憲象

母と子に優しき影の日傘かな

宗像市光岡 白土 凌一

赤とんぼ大空飛ばん盆近し

福津市在 自 増田 武光

夕焼があり戦傷の父があり

宗像市日の里 花田いつ枝

明日は明日一昨日終りし霞簾る

宗像市東郷 宗風社俳句会 吉田 杏子

山畑にかそへて植ゑしレタス苗

宗像市東郷 三浦美千代

ゆつくりと母と歩きぬ月の浜

宗像市東郷 田中 雨葉

青梅雨や音をひそめて朝戸くる

宗像市東郷 木原 房子

どの部屋も紫陽花さして梅雨こもる

## 編集後記

詳細は次号で地球大会出場のため神戸へ行かせていただきました。野球の結果以上に、翌日の視察で訪れた震災記念館と甲子園が心に残りました。甲子園は先程早稲の優勝を下ろしました。エース斎藤君のおかげで高校野球の魅力を存分にみせてくれた、近年にない爽やかな大会でした。一方の震災記念館は、最新の技術により、実際の地震の揺れ、各地域ごとに建物が崩れる映像と、直下型地震の凄まじさがよく分かりました。分かり過ぎ、被災者の方は気分が悪くなったり最後まで見れない方が多いそうです。正直、こんなにかつたとは思っていませんでした。人生一度と言いますが、この記念館は是非一度訪れることをお勧めします。(MO)

〒811-3505 福岡県宗像市田島  
電話 0940-62-1311(代)  
発行人 伊藤佳和  
編集人 大塚宗延  
制作 ゼネラルアサヒ  
印刷 ゼネラルアサヒ

宗像大社社務所 発行所 宗像大社

定価1年送料共1,000円